

# 航空機産業へ中小企業参入を促進

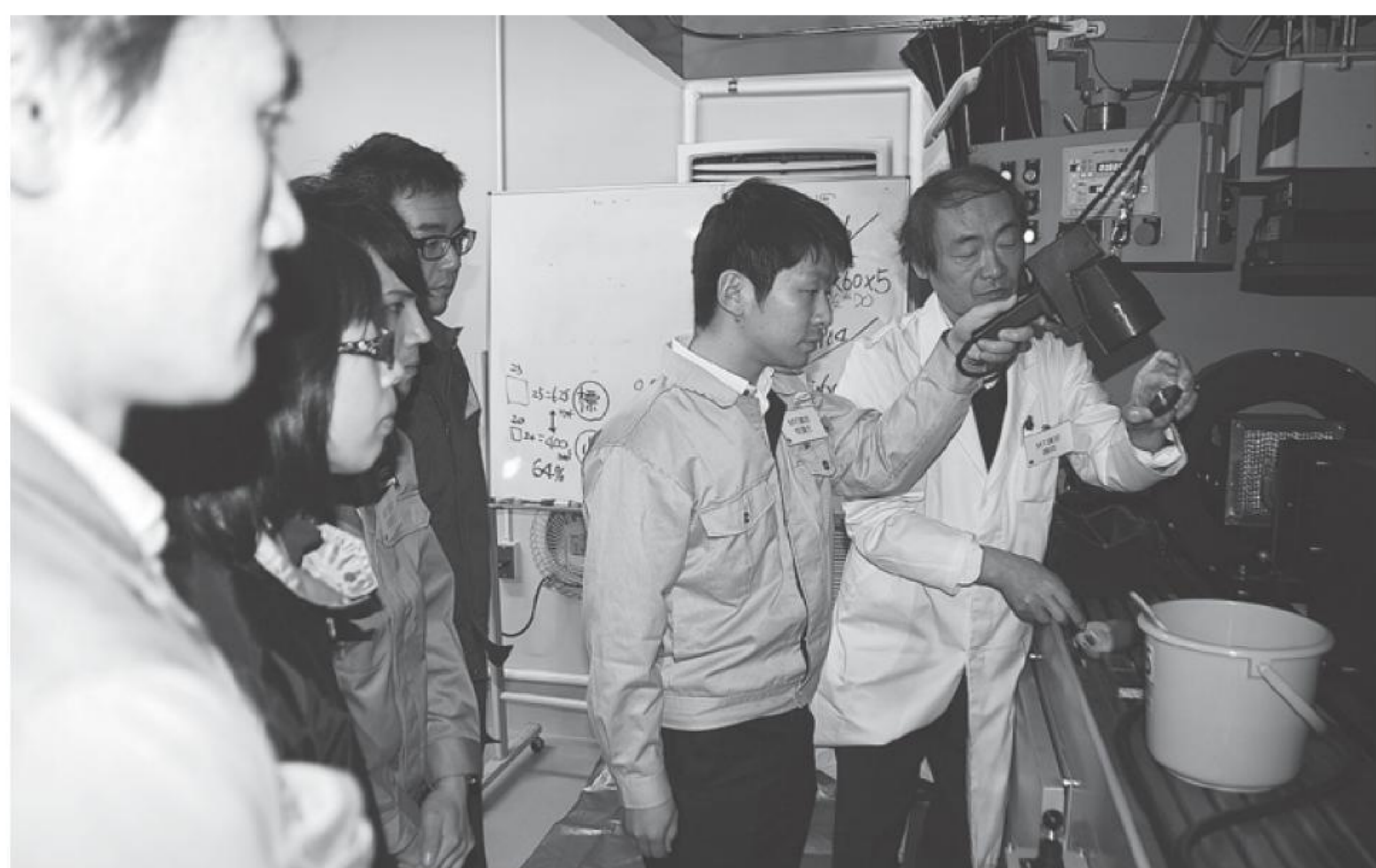
## 非破壊検査トレーニングセンター開設



金澤副知事、黒川県会議長らがテープカットを行い開設を祝した

県では中小企業の航空機産業への参入や技術者の育成を支援しており、トレーニングセンターの設置はその一環に位置づけられる。中小企業が非破壊検査員を確保することで、同産業への大きな参入障壁が解消される。

開設に先立つ13日には記念式典が開かれ、関係者ら約170人が出席した。金澤副知事は「県では次世代産業育成プロジェクトを進めている。このセンターが航空機産業の裾野を広げる足がかりになる。機能発揮へ支援を」と求めた。



実技講習で検査技術を学ぶ実習生

平成30年度以降は、3講習とも年2回開催する計画となっている。

県は、航空機部品の製造に必要な非破壊検査を中小企業で実施できるように、国際認証規格（NAS410）に

### 国内初の訓練機関、工技センターに 部品製造に必要な検査員養成

準拠した国内初の訓練機関「航空産業非破壊検査トレーニングセンター」を18日、神戸市須磨区の県立工業技術センターに開設した。県内の航空機関連の製造品出荷額等の全国シェアは約10%（平成25年工業統計調査）で、すでにサプライチェーンが形成されている。今後、大幅な市場拡大が予測されており、大手メーカーをはじめ中小企業においても積極的な設備投資が見られるとともに、部品点数が多く裾野が広いため一層の本格参入が期待されている。

トレーニングセンターの柱の一つが航空機。中小企業が自前で検査を行う意義は大きい。このセンターが航空機産業の裾野を広げる足がかりになる。機能発揮へ支援を」と求めた。

「講義内容を実習で体験でき、頭に入りやすい。得たことを社内でも共有し、将来的には航空機産業の非破壊検査を担える人材になれば」と意気込みを語っていた。

トップを切って磁粉探傷の講習を18日から27日まで実施している。

実習生で能勢鋼材（株）の村岡大雅さん（26）は「学べば学ぶほど現場でどう活かすか関心が高まり、実習で教えてもらっている。学んだことを今後の仕事につなげたい」、（株）神戸工業試験場の田畑貴浩さん（22）は